

北信地域における頭頸部がんの診断から治療開始までの待機期間と関連要因

瀧口 知彌、西野 善一

金沢医科大学 医学部 公衆衛生学
連絡先：ttakiguc@kanazawa-med.ac.jp



P1-1

【目的】北信地域における頭頸部がんの診断から治療までの待機期間とその規定因子を明らかにすることを目的とする。

【方法】北信4県（長野、富山、石川、福井）のがん診療連携拠点病院等22施設の院内がん登録データより、2016年から2017年に診断された原発部位が口腔、大唾液腺、咽頭の癌腫で、かつ自施設で初回治療が実施されたものを対象とした。各部位の診断から治療開始までの期間（待機期間）を比較するとともに、待機期間が30日を超えるものを長期待機症例と定義して、口腔と咽頭について長期待機と患者、施設特性との関連についてロジスティック回帰分析を用いて解析を実施した。

表1：多変量ロジスティック回帰分析による診断日から初回治療開始日までの期間との関連（口腔）

	Odds Ratio	Std. Err.	95% CI
性別			
男	1.00	(base)	
女	0.70	0.17	0.43 - 1.13
年齢区分			
65歳未満	1.00	(base)	
65-74歳	0.42	0.13	0.23 - 0.76
75歳以上	1.15	0.32	0.67 - 1.97
症例区分			
自施設診断例	1.00	(base)	
他施設診断例	4.09	1.22	2.27 - 7.35
治療前進展度			
限局	1.00	(base)	
領域・遠隔転移	0.48	0.13	0.29 - 0.81
手術の有無			
あり	1.00	(base)	
なし	1.26	0.45	0.63 - 2.56
施設所在県			
富山・石川・福井	1.00	(base)	
長野	0.97	0.25	0.58 - 1.62
施設種別			
大学病院以外	1.00	(base)	
大学病院	0.96	0.24	0.59 - 1.56

【結果】解析対象の症例数は口腔358例、大唾液腺43例、咽頭359例（上咽頭39例、中咽頭169例、下咽頭151例）の計760例である。待機期間の中央値は口腔25日、大唾液腺40日、咽頭34日（上咽頭29日、中咽頭34日、下咽頭34日）であり口腔の待機期間は他の部位より有意に短かった。単変量ロジスティック回帰分析では、口腔では他施設診断例において長期待機のオッズ比が有意に上昇するとともに

に、領域・遠隔転移例で有意に低下していた。咽頭では他施設診断例で同様の関連を認めるとともに、施設の所在県が長野県、および大学病院における治療開始症例で長期待機のオッズ比が有意に上昇していた。多変量ロジスティック回帰分析の結果は口腔では単変量解析の場合と同様であった。咽頭では単変量解析で有意であった項目に加えて中咽頭における治療開始症例で長期待機のオッズ比が有意に上昇していた。

表2：多変量ロジスティック回帰分析による診断日から初回治療開始日までの期間との関連（咽頭）

	Odds Ratio	Std. Err.	95% CI
性別			
男	1.00	(base)	
女	0.69	0.24	0.35 - 1.36
年齢区分			
65歳未満	1.00	(base)	
65-74歳	1.38	0.39	0.80 - 2.38
75歳以上	0.95	0.32	0.49 - 1.84
詳細部位			
上咽頭	1.00	(base)	
中咽頭	2.33	0.96	1.04 - 5.24
下咽頭	1.89	0.79	0.83 - 4.28
症例区分			
自施設診断例	1.00	(base)	
他施設診断例	5.11	1.59	2.78 - 9.42
進展度			
限局	1.00	(base)	
領域・遠隔転移	0.60	0.17	0.34 - 1.06
手術の有無			
あり	1.00	(base)	
なし	0.84	0.24	0.48 - 1.47
施設所在県			
富山・石川・福井	1.00	(base)	
長野	3.34	0.92	1.95 - 5.72
施設種別			
大学病院以外	1.00	(base)	
大学病院	2.80	0.73	1.68 - 4.66

【結論】北信地域における頭頸部がんの治療開始までの待機期間は、大唾液腺と咽頭は口腔に比べて有意に長く、他要因補正後も口腔は進展度、咽頭は中咽頭症例、施設所在県および施設特性と長期待機との間に関連を認めた。

今後これらの特性が長期待機と関連する理由についてさらなる検証が必要である。